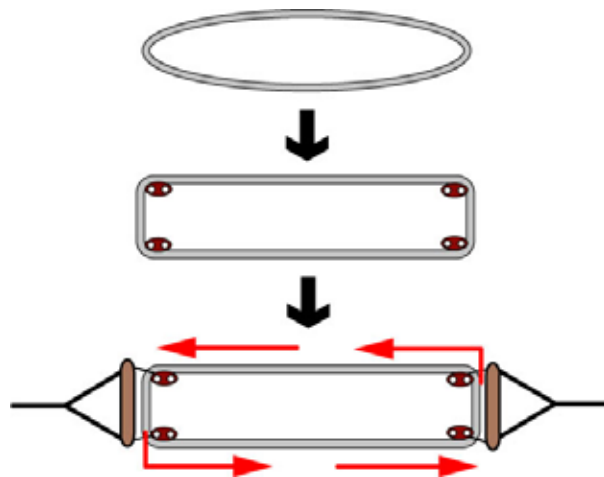


なるほど油防除資機材！！ ～その2 エンドレスロープ～

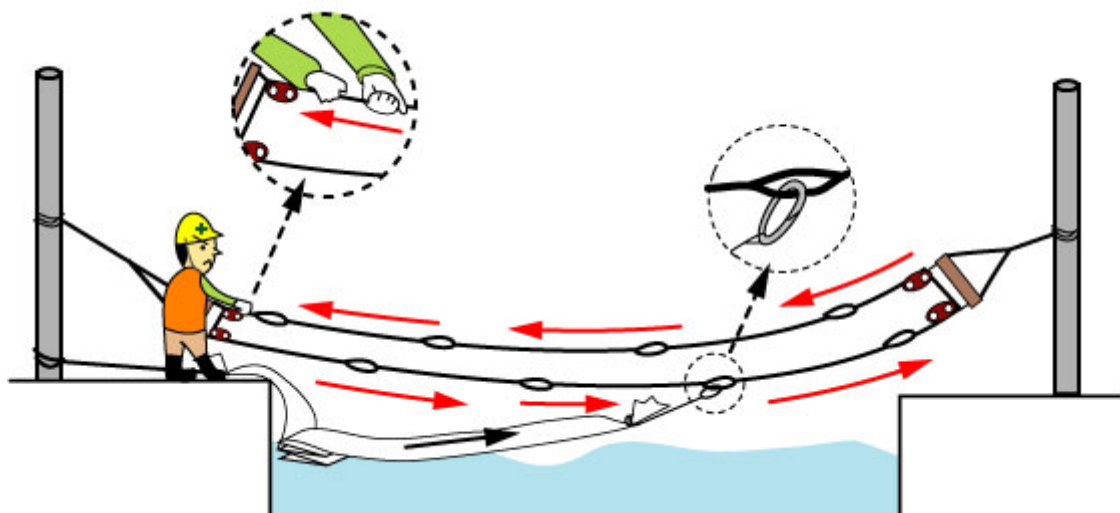
今回は前号の「簡易スライディングジョイント」に引き続き、水面上に油回収ネットや帯状油吸着材を展張する時に活躍する「エンドレスロープ」をご紹介します。

輪にしたロープの両端に2個ずつ滑車を付け、両端を固定した後にクルクルと回して使うのがエンドレスロープです(図1)。つまりベルトコンベアのように、はたまたスキー場のリフトのように行っては戻ってくるロープです。



(図1) エンドレスロープの仕組み

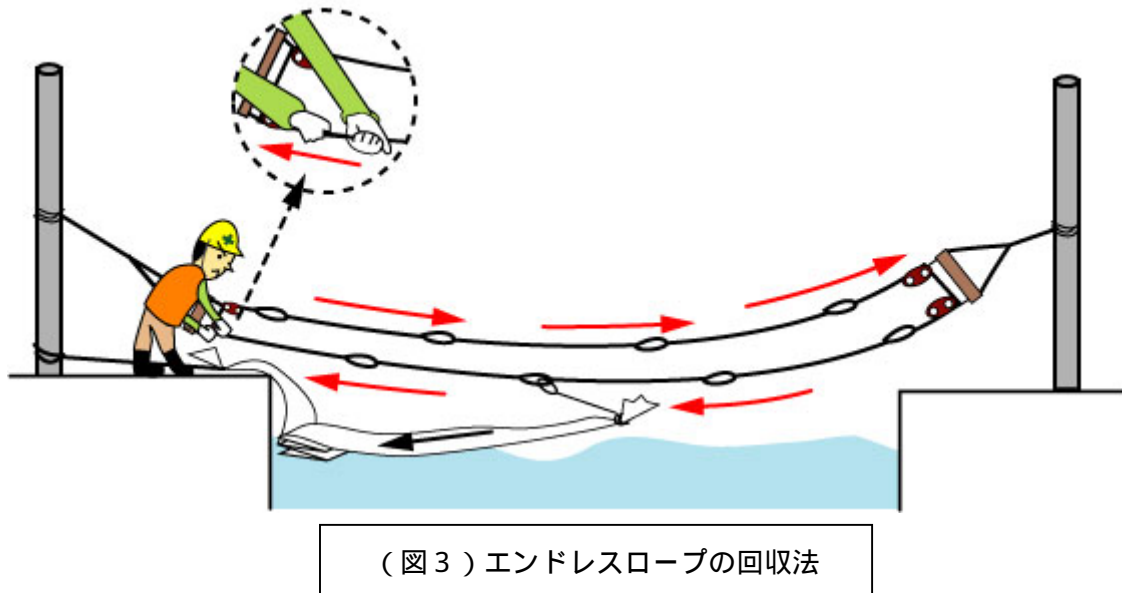
エンドレスロープにはアイスプライスを入れておきます。カラビナを付けたロープで帯状油吸着マットの先端を縛り、両端を柱等で固定したエンドレスロープのアイスプライスにカラビナを引っ掛けてからエンドレスロープを回せば、帯状油吸着マットがこれについて移動します(図2)。



(図2) エンドレスロープ使用法

港入口などの岸壁から海を挟んだ向かい側の岸壁にエンドレスロープを渡し、エンドレスロープを回して帯状油吸着マット等を張ります。港入口で船が出入りする場合にはエン

ドレスロープを逆向きに回して油吸着マット等を引き寄せて通航の邪魔にならないようにします。带状油吸着マット等が汚れた場合にもエンドレスロープを逆向きに回し油吸着マット等を引き寄せてから回収すると簡単に交換できます（図3）。



また、汚染された海岸と防除資機材や作業員を乗せた台船（台船が無い場合は船や浮桟橋でも可）との間にエンドレスロープを張って、箱舟を行き来させれば、陸への資機材輸送や台船等への汚染物等回収に便利です。特に、砂浜や干潟での油漂着事故の場合、油の付いた砂を踏んだ足で他の場所を踏むと汚染を拡大させる恐れがあるため、物資の輸送にこの方法を使うことで陸上を行き来する人員を減らすことができ、環境破壊を最小限に抑えると期待できます。

以上がエンドレスロープの簡単なご紹介です。

このエンドレスロープは、前回ご紹介した簡易式スライディングジョイントを考案された海上防災アドバイザー坂本由之氏によるものです。

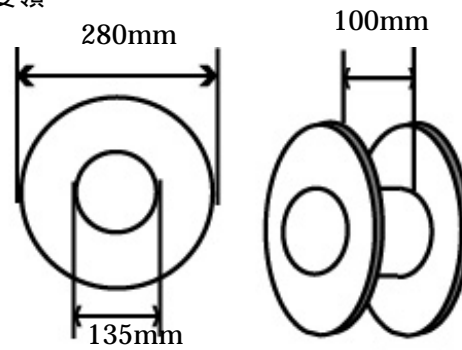
また、エンドレスロープ使用時に簡単にロープを繰り出すことができる「格納リール」の作り方を示しました（図4）。なお、図4の「格納リール」では30mのエンドレスロープまで収納することができる寸法になっています。これよりも太いロープあるいは長いロープでエンドレスロープを作る場合はより大きな格納リールを製作する必要があります。

エンドレスロープは油防除・清掃作業の他にも物資の輸送等に幅広く利用することができます。用途に併せてロープの太さ、長さを変えてご活用下さい。

(図 4) エンドレスロープ及び格納リール作成要領

一般に使用されているFRP製電気溶接棒巻取りリール(直径約280mm×幅約116mm)を2個使用。(右図)

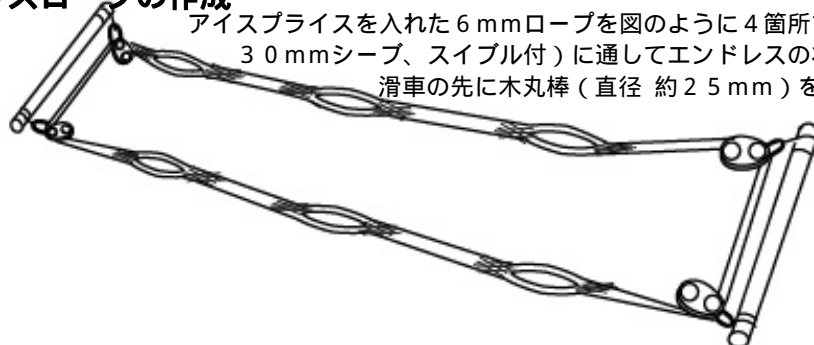
* 鉄工所または造船所等で入手可能



| | |
|---------------------------|---|
| <p>40mm</p> | <p>格納リールの作成</p> <p>金鋸で切り込みを入れ、サンダーを用いて滑らかに仕上げる。</p> <p>232mm</p> <p>16mm</p> <p>8mm</p> <p>100mm 100mm</p> |
| | <p>リールを2個合わせて4点でビス止めする。</p> |
| <p>竹棒または塩ビ管</p> <p>つば</p> | <p>エンドレスロープ展張時の回転軸として竹棒または塩ビ管等を差し込む。また、リールが移動しないよう手元側のみ「つば」をつける。</p> |

エンドスロープの作成

アイスパリスを入れた6mmロープを図のように4箇所ですべり（SUS 30mmシーブ、スイブル付）に通してエンドレスの状態を作り、すべりの先に木丸棒（直径 約2.5mm）を取り付ける。



エンドスロープの格納



エンドスロープは格納リールに巻取り、木丸棒を切込みにはめ、この状態で保管する。

エンドスロープの展張

両端の木丸棒にロープをつけ、これを引っ張ってエンドスロープを展張する。

